第９分科会テーマ

『地域連携シート』を活用した子どもを取り巻く支援のつながりについて

～狭山市自立支援協議会　こども部会の絆創り～

狭山市自立支援協議会　こども部会

１　はじめに

狭山市自立支援協議会こども部会は、育ちに配慮が必要な子、支援が必要な子（18 歳まで）の生活課題、育ちの課題を見つめながら、子供達とご家族の生活と、福祉と教育、医療がどのように連携し繋がっていけばよいか、手の届いていない部分はどこなのかといった課題の抽出と実践の啓発をテーマに、年間を通じて活動をしている障碍者総合支援法に定められた協議会となっている。

構成メンバーは、相談支援専門員、児童発達支援事業所職員、放課後等デイサービス事業所職員、特別支援学級・学校の教員、教育委員会、行政、大学教授と様々な分野から集まり構成されている。

２　狭山市自立支援協議会こども部会活動の概要

（１）　厚労省と文科省の協働事業である「トライアングルプロジェクト」への継続参画

前年度に引き続き、教育と福祉、医療との連携を具現化させていくための取組を中心テーマのひとつとしていく。4 月の再配布を開始した『地域連携シート』を活用し、地域の教員、支援者、保護者を対象に、教育と福祉の連携の実践と有効性の啓発を行う。

（２）新たな地域課題の抽出

部会を隔月程度開催する。放課後等デイサービス職員（以後、放デイ職員とする）は１６時の会議参加は難しいため、狭山市放デイ連絡協議会と連携し、意見を吸い上げておく。また、市内特別支援学級担任者会代表者から意見を聞く等して、広く意見を集約し新たな地域課題に向き合う。

３　取組の実際

『地域連携シート』の配布・活用を軸として

令和 3 年度から準備し、4 年度から配布を行っている。さらに、令和 5 年度は、新たな地域課題も取り上げられるよう、話し合いを深めた。それぞれがこれまでにどのように活動し、連携してきたかを以下にまとめる。

（1）こども部会の取組について

①令和 3 年度

国立リハビリテーションセンター内、発達障害情報支援センターと連携しながら、「トライアングルプロジェクト」を進める。市内小中学校校長会議にて、内容等の説明を行う。

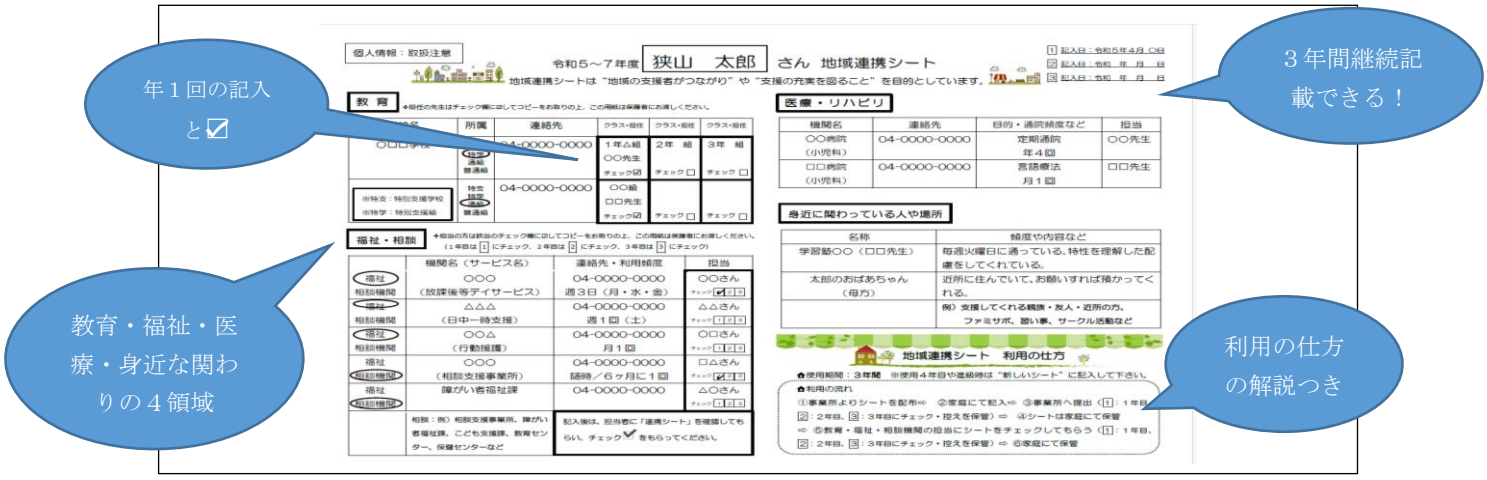
『地域連携シート』の作成・活用を部会の中心に据え、次年度 4 月に放課後等デイサービスから保護者等への配布ができるよう準備を行う。

②令和 4 年度

予定通り、4 月から配布を行った。一人一人の子どもが関わっている学校や福祉サービス事業所等について支援者が把握し合い、同じ方向性で、子どもと家庭に関わっていく糸口作りをこのシートを媒体としておこない、徐々に連携を充実できるようねらった。課題としては、事業所経由での配布のため、なかなか学校に浸透しないことや活用の仕方も共通理解が深まらない事であった。そこで、令和 5 年度に向けて、「トライアングルプロジェクトの学び直し」やそれぞれの現場の声を吸い上げ、シートの修正や配布ルートの再確認等を話し合った。毎年記入ではなく 3 年間継続活用できるようにするとともに、配布ルートを県立特支や小中学校からにできるか検討した。

③令和５年度

県立学校においては、全校や狭山市の児童・生徒など配布対象を学校ごとに検討することとなった。市内の小中学校においては、こども部会の主催者である、障害者福祉課と教育委員会が連携することが重要となり、校長会議で障害者福祉課長とこども部会座長から説明があった。これを元に、次年度に向けて学校から家庭に『地域連携シートが』配布され、福祉の力を必要とする児童・生徒と関係者がつながることができることとなった。



（２）学校での取り組みについて

①狭山市の特別支援教育の概要

小学校 15 校、中学校 8 校、計 23 校からなる狭山市は、特別支援学級が知的障害学級２４、自閉症情緒障害学級２３、病弱学級１の合計４８学級。通級指導教室については、発達情緒通級４、難聴言語通級２の合計６学級が設置されている。全県的に特別支援教育の需要は高まっているが、狭山市においても同様である。

②外部機関との連携の一歩に

児童の課題を解決しようと、学校は日々奮闘している。その課題の根本は何なのか、あらゆる角度から解決しようと担任を中心に特別支援教育コーディネーターや生徒指導主任、管理職と学校が組織的に解決に向けて動いている。しかし、最近の傾向として、特別支援教育的な視点が必要となる児童が多く見受けられる。専門性のある方の意見を聞く機会は、教育委員会が設定する「巡回相談」やスクールカウンセラーなどここ数年で回数が増えたように思う。しかし、「学校を離れた先の支援」は外部の福祉的な機関と連携をとることが必要になってくる。

こども部会で「学校は敷居が高い」という声を関係機関から寄せられる。子どもの個人情報を慎重に扱う特性上、慎重にならざるを得ないのが学校である。しかし、子どもの幸せを真ん中においてスムーズに共通理解を図れるよう、このシートが「連携の一歩」になると考える。そして、教育・福祉・医療・家庭の連携が狭山市の安心な子育ての土台となることを願う。

４　成果と課題

不登校との連携：シート裏面

令和５年度は、様式変更し配布・活用の道筋ができた。これを機に、トライアングルプロジェクトが、狭山市で本格化することを願う。課題としては、地域連携シートの裏面にも取り上げているが、「不登校の解消」に向けての地域連携シートの活用を軸に課題解決を図っていきたい。

５　おわりに

児童・生徒数の減少が叫ばれている中、特別支援教育と不登校に関係する児童生徒数は増加の一途をたどっている。子育てや教育が安心して行える狭山市として、地域連携を今後も深めていきたい。